

平成17年7月27日

山陽新聞

# 火災センサー 仏壇に設置

アンテック、中原三法堂協力

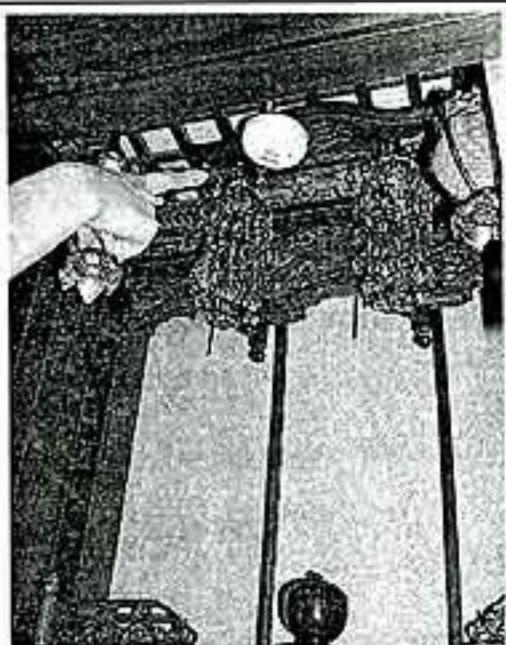
陶芸窯の温度制御器な  
どを手掛けるアンテック

(瀬戸内市邑久町)が開  
発した火災検知センサー  
を付けた仏壇の販売を、  
中原三法堂(倉敷市羽島)  
が始めた。ろうそくの炎  
には反応しないが、火事  
と判断される大きさの炎  
には反応、ブザー音で異  
常を知らせる。

センサーは直径六・八  
センチ、高さ二・五センチの丸形。  
炎に含まれる紫外線を感

知する機能を持つ。紫外  
線の検知部分に特殊なフ  
イルターを張り付け、感  
度を調整している。

仏壇内部の天井部分に  
センサーを設置。通常の  
位置に立てたろうそくや  
ライターなどの小さな炎  
には反応しないが、火が  
ちようちんに燃え移った  
場合など、ある程度大き  
くなった炎を感知する。



仏壇の天井部に設置さ  
れた火災検知センサー

熱や煙で検知する従来の  
センサーとは違い、炎が  
上がった瞬間をとらえる  
ため、初期火災の発見に  
役立つのが特長。

火災検知センサーの用  
途拡大を目指すアンテッ  
クと、顧客の安心感を高  
めたい中原三法堂が協力  
し、火災センサー付き仏  
壇を実現させた。センサ  
ー単体の価格は三万五千  
百円。

中原三法堂は「将来的  
には、当社で扱う仏壇に  
センサーを標準装備する  
ことも考えたい」とし、  
アンテックは「初期段階  
の火災を検知できるなど  
センサーの優位性を知っ  
てほしい」としている。